

# 甲南Today

大学の未来が見える

No.6  
2001  
8.1

## クラブ活動で自分と出会う

開学50周年記念特集  
MOVE IN KONAN  
「ITで大学はどう変わる？」



甲南Today No.6

2001年8月1日発行 発行 甲南学園広報室 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL 078 431 434(代)

### シリーズ●甲南学園の20世紀 ⑥

昭和13(1938)年



## 阪神大水害の復旧作業を通じて結ばれた、 甲南生、教職員との固い絆。

「天災は忘れた頃にやってくる」。昭和13(1938)年7月5日に神戸地域を襲った阪神大水害はまさに戒めどおりの出来事です。5月中旬頃から降り出した雨が、7月に入ってから連日の豪雨となり、六甲山系南面の川という川が氾濫し、土石流が発生。700人の死者を数える大惨事となりました。同時に、泥水の奔流は甲南高校の塀を倒し、窓を破り、教室の1階を土砂で埋め尽くしました。水が去った後に、避難で疲れ切った教職員、生徒を待っていたのは、土砂で埋まった校舎を掘り起こし、元に戻す作業だったのでした。当時の校長、保々隆(保々隆)は、全教職員と全校生徒を集めると、先頭に立って復旧作業を指揮。尋常科1年から高等科3年までを縦割りの三つの中隊に分ける整然とした活動で、見事に対処を行ったといえます。

恐ろしい水害の体験ではありませんでしたが、2カ月あまりの復旧作業は、教職員と生徒、上級生と下級生の間にしっかりとした連帯を作り上げました。これは甲南にとって大きな収穫だったといえるでしょう。

平生鈞三郎のよびば 6

『天災はすべての人であり、またひとりひとり違ったものである』

平生鈞三郎氏 昭和11年発行(より)

インターネットで甲南大学へ

<http://www.konan-u.ac.jp>



## CONTENTS

- 01 Pick up the 甲南  
アブラハム・オルテリウスの世界地図
- 02 WHAT'S NEW! KONAN  
大学開学50周年・EBA総合コース開設記念シンポジウム  
大学教育懇談会
- 03 KONAN CAMPUS WATCHING  
**クラブ活動で  
自分と出会う**
- 07 MOVE IN KONAN シリーズ第2回  
**「ITで大学はどう変わる?」**
- 11 キャンパスライフ ここが知りたい!  
～生協食堂編～
- 12 クラブ紹介  
体育会釣クラブ  
文化会マンドリン・ギタークラブ
- 13 学びの最前線! アカデミック・ナウ  
ライクロフトゼミ  
辰巳研究室
- 14 KONAN PEOPLE 甲南ピープル  
チームワークでハードな研究に体当たり。  
堀口ゼミは、理系の中の体育会系!
- 15 キャンパスダイジェスト
- 17 ブックレビュー
- 18 甲南フォーラム
- 19 甲南学園の20世紀



今回の表紙  
体育会クルージング部の練習風景  
須磨ヨットハーバーを拠点に繰り広げられるクルージング部の活動シーン。特集「クラブ活動で自分と出会う」では、学生たちの課外活動の様子を詳しくお伝えしていきます。

Pick up the 甲南

アブラハム・オルテリウスの世界地図

9号館1階のエントランスホールの壁一面を覆い尽くす、大きな世界地図。これは、オランダの地理学者で数学者でもあるオルテリウス(1527年～1598年)が手掛けたものです。彼は本来、地図の作製と販売に従事していましたが、各地を旅行して地図の蒐集に努めている際、フランドルの一商人の注文をきっかけに、53葉の地図を含む世界地図帳を編みました。これが「THEATRVM ORBIS TERRARVM 1574 Antverpiae」。9号館の世界地図は、この世界地図帳から抜粋されたものです。原版の銅版刷をアートデコ(ストリートにフィルムをコーティング)して仕上げられたこの作品からは、当時のオルテリウスの地図にかがた情熱が感じ取れます。

## WHAT'S NEW! KONAN

各界からゲストを招き、  
21世紀のリーダー像に  
ついて、熱く討論。

大学開学50周年・  
EBA総合コース  
開設記念シンポジウム

5月12日、5号館1階511講義室において、大学開学50周年およびEBA総合コースの開設を記念するシンポジウムが開催されました。

EBA総合コースとは、4年間、少人数制の独自のカリキュラムで指導を行い、新しいビジネスリーダーを養成する特別コース。今回のシンポジウムにはパネリストに(株)M&Aコンサルティング代表取締役社長の村上世彰氏、日本エンタープライズ(株)代表取締役社長の上田勝典氏、コーディネーターに建築家である大江匡氏といった各界の著名人を迎え、本学からはEBA高等教育研究所の渡邊和



俊教授が参加し、「21世紀のリーダーとは」をテーマに話し合いが続きました。最初にゲストの方々の方々のこれまでの経緯が語られ、続いて大学生活の意義についての話。渡邊教授が「学生の主体性が社会に求められている今だからこそ、主人公を学生に据えた教育プログラムを実践できるEBA総合コースには可能性がある」と勉強だけでなく、広く、深く、内容の濃い体験を幅広く取り込みたい」とEBA総合コースへの抱負を熱く語られました。さらに「これからの時代を担うリーダーの条件について話が及び、あきらめない人であることが大切。協力者との関係を育てながら、目標に向かって努力できる人にEBA総合コースをめざしてほしい」とコメントされました。

ビジネスの世界がどう変化しているのか、また、その中で求められる人材について活発な意見が交わされたこのシンポジウム。来春の開設に向けて、大きな一歩を踏みだしました。

大学とご父母を結ぶ  
教育懇談会に880人出席  
大学教育懇談会

2001年度の大学教育懇談会が6月30日午後、本校舎キャンパスで開催され、880人のご父母が出席されました。

まず、学友会館内の学生食堂や新5号館1階のカフェテリアで昼食を摂っていた後、1号館4階142講義室に集まり、学長のあいさつ、学部長などの紹介に続いて、高石恭子・文学部助教授による講演「大学生生活と心の問題」が行われました。

午後2時半からは個別相談を実施。学部別による学修相談、就職相談、学生生活相談、留学相談について、ご父母のごに担当の教職員がお答えさせていただきました。

その後は、新5号館や情報教育センターなどの施設見学、チャーターや歌舞伎文楽研究部などの活動発表があり、4時半すぎに閉会となりました。今年度はまた、秋に広島市内で第2回の大学教育懇談会を開催します。詳細は、追って案内しますので、中・四国などのご父母のみなさまにはぜひご出席いただきますようお願い申し上げます。



# クラブ活動で 自分と出会う

学部も学年も違う仲間と出会い、さまざまな刺激を受けられるクラブ活動はそれまでの価値観を越え、新しい自分に出会うチャンス。ここでは、体育会クルージング部と文化会交響楽団に所属する学生をインタビューし、活動を通して得られた貴重な体験について語ってもらいました。



海では甘えることができない。先輩の厳しい指導にも納得。大学に入ったら、何か新しいことを始めたい。クルージング部に入部したきっかけはそんな軽い気持ちだったのですが、入ってみると想像以上に上下関係の厳しい体育会系のクラブだったので驚きました。目上の人への挨拶や礼儀を徹底するのはあたりまえ。先輩の指示どおりに動かなくて、ひどく怒鳴られたこともあります。正直言って、いまどきこんなクラブって少ないと思いますよ。

体育会  
クルージング部  
法学部法学科  
4年次 渋谷 享一郎さん



## 「責任を果たすことの大切さに、海の上ではじめて気づいた。」

ただ、実際に海に出ると、先輩方があれだけ厳しくされた理由もよくわかります。クルージング部では、普段から須磨の練習場で行っているヨットレースの稽古と、夏期休暇を利用して行うクルージングの2つが主な活動。僕はとくに何人かでチームを組んで、九州などまで遠征する旅行が爽快で気に入っているのですが、楽しいと言っても海ではいろんなアクシデントが起こります。穏やかだった海が突然荒れるのも時と場合。ここで、ここで大切なのは全員がリーダーの指示に従って力を合わせるということです。もし一人でも連携を乱せば、全員が危険にさらされますから、勝手な行動は決して許されません。



世界選手権「ANIORU'S CUP」出場を懸けた、3月の予選大会に出場。4位と惜敗するも、次の挑戦への決意を新たにしました。

文化会  
交響楽団  
文学部日本語日本文学科  
3年次 明石 藍さん

みんなで練習に明け暮れる毎日。一つの音を作る喜びを実感する。実は私、10才の頃からフルートを習っているのですが、高校までは仲間と一緒に演奏した経験がなくて、一度、合奏する楽しさを味わってみたかったので、入学してすぐ交響楽団に入部することにしました。ところがいざ部室を訪れてみると、先輩は厳しそうだし、みんな黙々と練習していて緊張



## 「一人で演奏する方がずっと気楽。だけど、あんな感激は味わえない。」

した雰囲気だし、最初は入るクラブを間違えたかなと思いました(苦笑)。仲間との演奏も、慣れないうちは楽しいと言うより、その緊張感に戸惑うばかり。大きな演奏会になれば、100人くらいの奏者がいるのに、誰か一人が違う音を出すだけで、すべて台無しになってしまいます。お互いが一つの音を作り上げるために、協力し合わなければならない難しさを知りました。練習は週に4日、2時間ずつ。演奏会前なら、土日も4時間の音合わせを行うなど、かなりハード。遊びの誘いを断ってまで、なんでこんなことしてるんだろうと、ふと考え込んでしまつこともあります。



昨年5月19日、尼崎アルカイックホールで行われた「甲南大学文化会交響楽団2000 スプリングコンサート」のワンシーン



体育会 **ワンダーフォーゲル部**



スリリングな体験を  
 ともにしてきたカヌーは  
 ワンダーフォーゲル部の宝物。

学校の裏山へ登ったり、ロードワークを行ったりと、普段はトレーニングに明け暮れている僕らですが、何よりの楽しみは、長期休暇に日本中あちこちへ旅をすること。そんなとき、欠かせないのがこのカヌーです。ゆるやかな川の流りに任せて進む心地よさはもちろん、川の流りが想像以上にきつく、死にもぐるいでパドリングした体験も、今は最高の思い出になっています。

知る人ぞ知る! 甲南大学のクラブ施設を紹介

白馬山麓 親沢小屋



長野県北安曇郡小谷村にあるワンダーフォーゲル部のキャンプ施設。夏期合宿やオープン・ワンデリングなどに利用されています。

須磨ヨットハーバー



須磨の海辺に位置する、ヨット、ボートなどの停泊施設。クルージング部の活動拠点であり、休日には、一般の社会人にも広く利用されています。

六甲アイランド体育施設



野球場、球技場(2面)、洋弓場、グラウンド、体育館などの施設があり、体育の正課授業や体育系クラブ活動の練習、試合に使用されています。

広野グラウンド



神戸市西区神出町の自然豊かな環境の中にある体育施設。野球場、陸上競技場のほか、馬術部専用の馬場や宿泊施設などが揃っています。

体育会 **馬術部**

オリンピックにも出場した名手、  
 沢井孝夫先輩が僕らのコーチ。



僕たちをコーチしてくれる沢井孝夫先輩(1964年、法学部卒)は、かつてソウルオリンピックに出場したほどの腕前と、馬のクリニックを運営するほどの知識をお持ちで、指導者として、これ以上ない人物です。生き物と一体になれるかどうか勝敗を分ける馬術は、技術を磨いていくのが本当に難しいのですが、沢井コーチの指導のもとなら、一歩ずつ上へ上へいけると確信しています。

体育会 **ゴルフ部**

50球入れないと帰れない、  
 伝統のパターマットが  
 勝負強さの秘密。



ゴルフ部の名物は、新入生なら誰でも一度は泣かされるという伝統のパターマット。先輩から「パターをもっと練習しろ」と注意された日は、50球を連続してカップに入れるまで帰ることができません。2000年の関西1部リーグ学校対抗戦3位、全日本学校対抗戦11位といった優秀な実績が生まれているのも、きっとこの地道な努力のおかげじゃないかな。

文化会 **能楽研究部**

本番の舞台でしか  
 持てない扇が、  
 気持ちをピシッと  
 引き締める。



部員数が18人とそれほど多くないため、普段はアットホームなクラブですが、なにせ練習するのは、儀礼を重んじる日本の伝統芸能。舞台上げれば、全員が真剣そのものです。中でも、一人ずつ舞いを披露する「仕舞」の舞台では、本番用の豪華な扇を持つため、余計に気持ちが引き締まります。それにしてもこの扇、これだけきれいだから、買ったらかなり高いんでしょうね。

文化会 **茶華料理部 道心会**



「旅館みたい」と驚かれる  
 60畳もの広い庭付き  
 部室が自慢。

茶道、華道、料理のそれぞれの技術を、プロの先生の手ほどきで習得していく道心会。私たちの活動は、ゆったりと気持ちを落ち着けて行うことが大切なので、庭付きの広い和室を部室として用意してもらっているんですよ。初めて訪れた人は、「旅館みたい」とビックリするようです。各部門に先輩方が少しずつ揃えた本格的な道具が充実していることも自慢です。

天文同好会



土星の環まで見える  
 天体望遠鏡。  
 覗けば感激間違いナシ!



僕らの活動になくてはならないもの、それはズバリ天体望遠鏡。土星の環や木星の衛星まではっきり見えるので、とくに初めて覗く人なら感激すること間違いなしです。カメラを取りつければ写真撮影もでき、この間の月食のときは、月が地球の陰になり、消えていく様子をバッチリ撮影することができました。だけど、よく晴れた夜なら、寝ころんでそのまま空を見上げるのも最高ですよ。

開学  
50周年  
記念特集

MOVE IN KONAN  
シリーズ第2回

# 「ITで大学はどう変わる？」

インターネットの普及により、世界の情報が瞬時にやり取りされるIT(Information Technology)の時代。情報を有効に利用し、効率よく目的を達成する情報活用能力の必要性が急速に高まっており、大学では、カリキュラムの見直し、教育環境の充実がますます盛んとなっている。しかし、いま求められる“情報を使いこなす力”とは、どんな能力を言うのだろうか。コンピュータを巧みに操作する技術のことだろうか。それとも、収集した情報を知識としていくことだろうか。開学50周年記念特集の第2回目では、急速に加速する大学のIT化に注目。ITでこれから大学教育がどう変わっていくのかを、甲南大学における最新の取り組みを手がかりに検証していく。



情報教育研究センター 杉村陽所長が語る

## 学生自身の興味に応じ、より深い知識を探求。 ネットワークが教育の新たな可能性を拓く。

### Report 1

甲南大学では、先進の情報教育設備を集積した新5号館の完成をきっかけに、より密度の濃いネットワークを学内外に張り巡らせ、これを学びに活かす新たな試み、甲南S ネット計画』を始動した。ネットワークの充実により、どんな学習が可能になるのだろうか。情報教育研究センター所長、杉村陽教授のインタビューから計画の全貌に迫る。



学内LANと無線LANでキャンパス内の全ての施設を結び、インターネットを利用した広域ネットワークで学生一人ひとりと大学をつなぐ先進のネットワーク環境が甲南大学に誕生。学生は自宅はもちろん、どの地域からでも、いつでもパソコンや携帯端末を使ってダイヤルアップで学内のサーバーにアクセスし、教務部や就職部といった学内の情報を閲覧することができるようになった。しかし、情報教育研究センター所長、杉村陽教授によれば、こうした情報閲覧システムはあくまで、甲南S ネット計画』の一部でしかないと言いつつ。

「ネットワークを単なる情報提供ではなく、新しい学習環境を実現するために活用したい。」甲南S ネット計画』はそんな発想からスタートしており、現在は、5学部13学科の各講義の予習・復習に活用できる学習コンテンツをサーバー上にアップする取り組みを各教員と進めている最中です。これが実現すれば、例えば、自分の履修している科目の一年間の学習計画が把握できることにより、いまままで講義ごとに断片的だった知識を体系化して理解することができます。また、他学部のコンテンツも自由に閲覧することができるため、法学の講義の予習で企業の仕組みを知りたいときは、その内容を経営学部ホームページ

で詳しく調べることができるでしょう。」

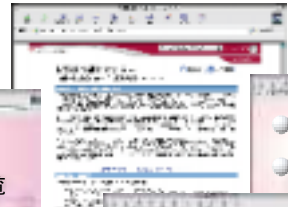
しかし、学習コンテンツをネットワークで進められているものの、コンテンツの数が十分など、いずれも利用者の満足に達していないのが現状。マルチメディア教材の作成に膨大な費用と手間がかかることが問題とされるが、甲南S ネット計画』では、こうした課題をクリアしているのだろうか。

「我々は、必ずしも手の込んだマルチメディア教材が必要とは考えていません。コンピュータや手間に大きく制約されません。コンテンツは、たとえ授業で使うためにテキスト化された資料そのものでもいい。授業で興味を抱いたことや日常生活の中でのふと疑問に感じたことを調べられる情報を、学生の手の届くところに提供し、学生が自ら学ぶことを促すことに意味があるのです。これが、甲南S ネット計画』の大きな特徴と言えそうです。」

知識をただ教えるのではなく、学生自身が興味に応じて探求し、自主性の中で深めていく。情報社会を生き抜く力とは、こうした学習環境でこそ育まれるのではないが、ネットワークを効果的に活用する、甲南S ネット計画』により、甲南大学は新たな学びの可能性を見出したに違いない。

### イントラネット サービスの可能性

- 各種電子ジャーナルや外部データベースの閲覧
- 図書検索サービス
- 図書館の各種サービス



- 各授業科目のWebページ閲覧
- CD/DVD貸し出しサービス

- パーチャル教務部
- パーチャル学生部
- 就職活動のオンライン支援
- 資格試験向けのオンライン問題集



5号館523講義室での授業風景

私の受け持つ講義「社会学・人類学実習」の内容は、近年需要が高まっている「社会調査士」の資格取得をめざすために必要な知識と技術を養成するもの。授業では調査票作成やサンプリング技法やデータベース作りなど、量的・質的データの収集をはじめ、フィールドワークなど実査により得られたデータの集計や図表化や統計的解析を学習します。続いて論文を作成する手順や、それをパワーポイントなどのソフトを使

専門図書のほかマルチメディアによる情報検索も可能な「サイバーライブラリ」をはじめ、106台のウインドウズマシンがそろった「自由利用パソコン室」など、先進的教育設備が充実する新5号館「学習情報プラザ」。21世紀に向けた教育拠点として、学内外から期待を集める新施設は、どんな学びに役立てられているのでしょうか。実際に利用されている「文学部社会学科の野々山久也教授のお話から、その実態に迫ります。

つて実際にプレゼンテーションする技術などを学習します。それもこうした実践的な内容を教師3人、院生のティーチング・アシスタント3人という徹底的な個別指導環境で教えていきます。このような体制で授業を行っているのも、社会調査士をめざすには、短い期間の中で、生のデータを収集・加工・分析し、かつ多様な情報を活用するための実践的な知識を幅広く身につけてもらわなければならないため。ですから、学生一人一台ずつパソコンを用意でき、しかも教師の手元の画面をプロジェクタで学生たちに見せられる新5号館の講義室は、学習環境として最適ですね。例えば、説明を受けるだけでなく、自分で実際にグラフを描きながら学べるわけですから、より深い理解が可能になると思います。また、閲覧したい資料があれば、サイバーライブラリの公開検索システム「OPAC」により、学内のどこからでも検索が可能。こうした便利な学習環境を利用することで、より、さらにもっと奥の深い講義を展開できるのではないかと、いまはまだ模索段階の部分もありますが、そんなふうに考えています。



インターネットや各種データベースを自由に利用できる「サイバーライブラリ」は、レポート作成の強い味方



目的に合わせて自由に使える「自由利用パソコン室」には、昼休みや授業の空き時間などに学生が殺到



学生にグラフの作り方をアドバイスする野々山教授

## 高度知的工房空間 新5号館「学習情報プラザ」の活用！

## Report 2 情報をどんな場面で、いかに役立てるか。 真の情報教育は、視点の養成から始まる。

全員がノートパソコンを持ち込んで行う授業が開始されるなど、甲南大学では、いま授業の形態が多様化する傾向にある。なぜいま、さまざまな授業が展開されつつあるのか。またこうした変化は、これまでの学びをどう変えていくのだろうか。理工学部情報システム工学科の田口友康教授、情報教育研究センターの嶋貝耕一助教授にお伺いした。

情報システム工学科  
田口友康教授



各教育機関における情報教育環境が向上し、大学入学の時点ですでにコンピュータの基礎技術を身につけた学生が増えてきた。情報教育研究センターの嶋貝耕一助教授によれば、これから大学の行う情報教育は、学生層の広がりを受け、取り組み方をより柔軟に変えていく必要があるという。「例えば、情報リテラシーについてレクチャーする。情報処理入門」という講義を、今年からA(アドバンス)とB(ベーシック)の2コースに分けたのもそうした試みの一つです。Bコースではこれまで同様、パソコンの基本的な操作から学びますが、基本操作をすでにマスターしている学生は発展的なAコースから学ぶことが可能。さまざまなソフトウェアを活用しながら、インターネットサイトから情報を収集し、レポートを仕上げしていくプロセスを学びます。

能力に合わせて学ぶ目的は、コンピュータの操作方法を習得するだけに留まらず、情報を活用して物事を有利に進める実践的な情報処理能力を、いち早く身につけて欲しいから。嶋貝助教授はその点を強調する。「社会でさまざまな課題に向き合うとき、この問題はインターネットで情報を集めて分析すれば、解決に導けるなど、まず臨機応変に発想することが必要となる。情報ツールを操作するのは、実はその後です。『情報処理入門』はその違いに気づきつつかけなければと考えています。」

どのような場面で情報が有効に働き、価値を持つかを知ることが、技術を学ぶ以上に大切なことなのだろう。そのうえ、情報システム工学科の田口友康教授によれば、技術の身に付き方もこうした視点を持って学



ぶかどつかに大きく左右されると言っ。「平成15年度から高等学校に『情報科』が新設されることを背景に、今年から理工学部情報システム工学科では新しく『情報科』の教職課程を設置しました。教職をめざさない学生に与えても、受講できる講義科目が変化したわけですが、中でも1年次に『情報社会学論』が加わったことは大きい。これまで情報技術から学んでいくのが一般的でしたが、これにより学生はまず、情報と個人とのかかわり、すなわち情報の倫理と社会的責任、知的所有権、職業としての情報技術などの問題をしっかりと学習します。これを頭の隅に置きながら技術を学ぶことで、その技術をどう活かしていくかと発想でき、自ずと習熟度が変わってくるはずですよ。」

これらの例に見る限り、甲南大学の情報教育で重視されているのは、小手先の知識やテクニックではなく、情報をいかに使うかといった視点である。根本的な部分から考えるからこそ、柔軟に発想し、自分なりに情報を使いこなす力が身につくのではないだろうか。

何も最先端の情報技術を使いこなすことが、いま求められている能力ではない。むしろ情報を活用することで、いかにスムーズに問題を解決できるかと頭を働かせることの方が重要だろう。つまり、これからの情報教育には、技術を学びながら一方ではまったく違う学科の学びに、実際にその技術を活かす複眼的な学習が求められていると言えそうだ。学生が自分の学習を追求するために、ネットワークやマルチメディアを活用し、より深く学ぶ。それが、IT化が進む大学の実現すべき姿なのかも知れない。

# Club Information



優秀な成績をおさめて「金甲賞」も受賞。  
みんなが楽しめるのがモットー！

「釣り」と一口に言っても、競技の種類はいろいろ。湖でバスを釣るアグレッシブなルアーフィッシングや、4メートルの投げさおを使い、重りをとばす距離を競うス波特キヤスティング。砂浜でカレイやキスを釣る投げ釣りや、波の高い岩場でチヌやケシを釣る磯釣り、へらぶなを釣る繊細な池釣りと、5種類あります。1995年に復活し、今年からクラブに昇格。現在は、18人のメンバーが釣りに出かけたがり、ス波特キヤスティングのために各自筋トレをしたりと、大会に向けて練習に励んでいます。

Sports  
体育会  
釣クラブ



主な大会は春と秋。基本的には個人競技今年から団体戦も導入して例えばルアーなら、釣った3匹の総重量、ス波特キヤスティングなら、重りの飛んだ飛距離で優勝を競いますが、昨年は、全日本学生釣魚連盟関西支部の春季ルアー大会で優勝者を出し、ス波特キヤスティング大会では我が校が1〜3位を独占。昨年は、大学の、父母の会から1年間通してがんばったクラブに送られる、「金甲賞」も受賞しています。クラブのモットーは、みんなが楽しめること。誰かが水ケたら誰かが笑ひ込むと、笑いの絶えないクラブで、揃ってラーメン好き。練習の帰りにラーメン屋に立ち寄るのが伝統となっています。合宿の時はバーベキューをしたり、アウトドアライフが満喫できるのも特徴です。



Culture  
文化会  
マンドリン・ギター  
クラブ



年に2回の単独コンサートに向けて練習する時はする、遊ぶ時は遊ぶ！

マンドリンを始めマンドラ、チェロクラシックギター、コントラバスの5種類の弦楽器を演奏する「マンドリン・ギタークラブ」。文化系でありながら、73人のメンバーは意外にも運動部系出身者が多く、ほとんどが初心者。6月に行われた1泊2日の広野合宿では、楽器を弾かずに野球大会、サッカーとスポーツ三昧で、新入生との交流を深めました。

普段は、5月と12月の年2回の単独コンサートに向け、週3回、3回生のパートリーダーを中心に練習する日々。賞を競い合うわけではないので、お客さんに楽しんでもらうための時間を過ごしてもらえたらいい。僕たちらしい演奏を心がけるのが目標です。毎回テーマを決めて演奏しますが、今年の5月は「ポップスコンサート」と題し、「ミュージック・イン・ポシブル」や「バック・トゥ・ザ・フューチャー」などのテーマ曲などを演奏。年末のコンサートでは、マンダリンのクラシック曲を中心に演奏する予定です。また今年、数年続いている老人ホームでの慰問コンサート活動で、大学の「父母の会」から表彰されました。十人十色の個性派集団が、遊ぶときは徹底的に遊び、練習する時は真剣に練習する。この「メリハリ」がクラブのキラーとして受け継がれています。

キャンパスライフ  
ここが知りたい！



生協食堂編

暮石店長に聞きました。

「人気のメニューを教えてください！」

甲南大学の生協食堂は安いだけがウリと思っただらとんでもない。おいしい料理を提供できるよう私がつねに研究を重ね、週に一回更新するメニューは、学生だけでなく教職員の方々にも好評です。全て無農薬栽培の野菜を使っているので安全面もバツリです。そのうえ、スタッフはみんな気さくな人ばかりなので、学生に「おばちゃん、サービスして」と言われたら、少し多めに盛りつけてあげること。これだけ親身にサービスする食堂はちやうとないんじゃないかな。



「いまは朝食を抜く人が多いようですが、健康に過ごすにはタブー。生協食堂は朝8:30から営業していますから、授業の前にちょっと寄って、栄養を補給して欲しい！」

人気メニューランキング



1 味・値段・量すべてに大満足！  
天津飯(M) 310円

(L) 410円、(S) 210円

値段・ボリューム・味と3拍子そろったパランスの良さに加え、ふっくら焼いた卵の柔らかさと中華風のあんのだしの相性が人気No.1の秘密



ボリュームの割にあっさりが人気の秘密

2 チキンカツ丼(M) 350円

(S) 250円

卵とカツの衣に、甘辛い出しのうまみがたっぷり染み込んだ人気の丼。鶏肉だから意外とあっさりしていて、女性でもペロリと食べられる



毎週替わる2品の組み合わせが楽しい

3 COOPランチ 280円

空揚げ中華とコロッセ、ハンバーグと魚フライなど、人気のおかず2品が週替わりで楽しめる。ご飯(M)、みそ汁をつけても440円はオトク

こんなときにも利用しています！  
学生食堂のスヌース。

その1

食堂に来たら、必ず誰か友達に会えるから、授業の空き時間にはよく来ています。

4年次 里村さん



その2

レポートの相談をするときはここですね。図書館ではワイワイ話せないので、3年次 安藤さん・片山さん

3年次 安藤さん・片山さん



その3

提出物の期限とか、休講の情報など、いつも友達と情報を交換する場所はここ。

2年次 溝脇さん



現在は世界レベルで活躍中の有田佳彦さん。堀口ゼミではどんなことを学んできたのでしょうか。「ひとつの実験を3人が4人で行うため、堀口ゼミではチームワークがとても大切。また、何にどれだけお金がかかるか先生に提示し、ネゴシエーションをきちんとやらないと実験が上手くいかないの、いつのまにか組織的な動きを身につけられました。これが現在の会社でもすぐ役に立っているんです。また、モノ作りへのこだわりを学べたことも大きな収穫。一般的には購入した機械を使って実験をしていましたし、別に作らなくてもシミュレーションできますけど、先生は“作る”重要性やオリジナリティをすごい強調しておられて。研究を単なる作業ではなく、あくまで自分と向かい合うためと位置づけるこのこだわりは、いまも僕の中に息づいています。でも、僕としては研究を通じて先生と仲良くなったのが一番うれしかったかな。お昼もほとんど一緒に、しかも先生のおごりでした(笑)。いまでも半年に1回くらい研究室に遊びに行っています。これからも先生ならではのこだわりを、若い人に指導して欲しいと思います。」

有田 佳彦さん  
(1996年大学院自然科学研究科物理学専攻修士課程修了)

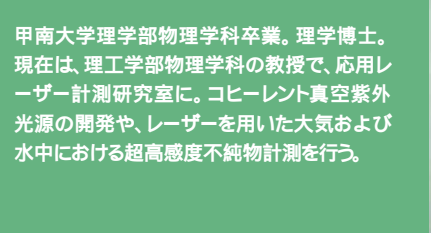
堀口ゼミは、理系の中の体育会系!

堀口 至朗教授(応用レーザー計測研究室)

堀口ゼミは、ドクター(博士)や大学院生(修士)が中心となり、大学4年次がそれを手伝いながら、2、3のテーマを同時に進める研究スタイル。担当の堀口教授にゼミの特徴を伺うと、「ウチは体力勝負!」との応えが返ってきた。「論文を書くと思ったら、まずは図面を引いてデータをとるための機械作りから始める。機械がやっと完成しても、正常な値を計測するには何時間もかかりたりしますし、最後は英語で論文を書き、外国の雑誌に投稿するわけですから、これは大変な手間ですよ。毎晩9時10時まで研究室にこもっていることも当たり前です。ただし、奥さんより長い時間を一緒に過ごしているおかげで、学生との結びつきは自然に強まりますね。それが院生なら3年間(大学4年次の1年間を含む)、ドクターなら6年間(同)ですからおさらです。例えば、この有田も3年間に共にした一人。彼は、もの凄く優秀ですね。ただ、性格がちよっと真面目で、親切すぎる。出来ない人にもイチから丁寧に教えて、実験遅れたりするから、こっちはイライラして『早よスイッチ入れ!』って(笑)。早くいい伴侶を見つけて、さらに活躍して欲しいですね。」



大学卒業後、2年間の大学院を経て、(株)堀場製作所製品開発部に勤務。以前は、オリジナル商品の設計を担当していたが、現在は、イギリスのベンチャー企業と協同で製品開発に取り組んでいる。



甲南大学理学部物理学卒業。理学博士。現在は、理工学部物理学の教授で、応用レーザー計測研究室に。コヒーレント真空紫外光源の開発や、レーザーを用いた大気および水中における超高感度不純物計測を行う。

Seminar  
ゼミ編  
マイクロフト・ゼミ

文学部英語英米文学科  
デビット・ライクロフト教授



ライクロフト・ゼミのテーマは、「おとぎ話と児童文学」を学問的に探求する。最初は簡単に考えていたのですが、実はおとぎ話や児童文学の世界って、哲学や宗教とも密接に関わっているの、想像以上に奥が深いんです。発表の順番が回ってきたときなど、原文や作家を調べ、結論づけていく準備に大忙しです。ただし、発表するテーマは自分たちで選んでもらえるからうれしい。どんなに忙しくても、自分の好きな作品を詳しく調べていく作業は、今まで知らなかった楽しさです。例えば私は、フェミニズム運動も経験しているドック・ウエストという作家が好きなのですが、このゼミに

哲学・宗教・医学などさまざまな見地から、「おとぎ話」と「児童文学」にアプローチ。

文学部英語英米文学科 4年次 出口由恵さん

入ってから発表を通してさらに詳しく知り、先生のおもしろい解説を聞いて、その興味が高まりました。卒論はこの作家を中心に書き上げようと考えています。もちろん私だけでなく、ほかのみんなもこのゼミで自分だけの興味を発見しているようです。森田さんはいま、児童文学が歴史とともに変化する過程を調べている。西山さんはおとぎ話に出てくる親子の関係を哲学的に説明するおもしろさに気づいたみたい。こうした興味がどんどん湧いてくるのも、自由なテーマを選ばせ、その中身についてはしっかり指導をしてくださるライクロフト先生のおかげだと思います。

これまで手つかずだった  
知的財産権を分析し、  
フェアな市場の在り方を模索。

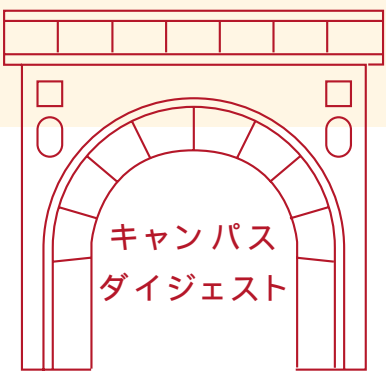
20年ほど前まではごく一部のみにしか知られていなかった知的財産権が、なぜいまクロフトさんで分析されているかといふと、これは経済のグローバル化、ポダリス化が原因です。企業が日本の中だけで活動していた頃は、侵害があってもお互いさまという認識が一般的で、問題が顕在化していなかったところがありますが、いまはいかに海外に対して競争力を持つかが問われる時代。これを有力な武器として利益を追求しようとする企業は少なくありません。しかし、知的財産権は、明治時代から制度と



Laboratory  
研究室編  
辰巳研究室  
法学部経営法学科  
辰巳 直彦教授

して確立していながら、最近まで学問的な研究は手つかずで来た分野。市場の動きが先行しているだけに、表向きは国際的なハーマネーションの中で、フェアな国際市場を維持するための制度が確立しつつあるといっても、実際は力を持つ先進国の企業の利潤追求のための手段ともなりかねません。私の研究室では、実際にこの権利をどう活用していくことができるのか。また、そこで考えられる問題はどんなことだろうか。こういったことを、過去の事例を取り上げることで分析。また、発展途上国の人々がクリエイティブティを發揮し、先進国と市場で対等な技術創作をなせる方法を模索していくことに尽力しています。





### 伝統の甲南vs.学習院 運動競技総合定期戦が開幕!

4月28日、第46回甲南大学対学習院大学運動競技総合定期戦の開会式が、本年度の会場となる甲南大学で執り行われました。

開会式では、体育会本部の伊達幸博副委員長が、熱い戦いに向けての闘志を宣言。続いて優勝杯の返還が行われました。両校の会長および副会長、審判委員長などのあいさつに続いて、昌子久晃体育会本部委員長から「勝利にこだわらぬ交流戦。闘志を奮い、技術を磨き、互いの成長をめざして戦おう」との激励の言葉があり、両校応援団による十人の交換が行われました。

定期戦の競技種目は、こしからラクロスが加わって全26競技に。手に汗握る熱戦の行方に、ご注目ください。



### 新たな出発。 外国人留学生を送る フェアウェルパーティを開催。

昨年の秋から本学に留学していた外国人留学生のフェアウェルパーティが、5月15日夜、平生記念セミナーハウスで行われました。集まったのは、本学での学修を終えた38人の留学生とホストファミリーのみなさん、本学の国際交流関係者など、およそ140人。

初めに吉沢英成学長から留学生とホストファミリーの方々にねぎらいと感謝の言葉が述べられ、「甲南大学で学んだこと、日本で過ごしたことに誇りを持って、それぞれの道に進んでほしい」とコメント。次に留学生を代表して、7人の学生が壇上に上がり、「とても楽しかった」「日本で過ごした時間を忘れな」「まじまじと日本語を勉強したかった」など、それぞれの思いを語りました。



その後、ホストファミリーの方からメッセージが寄せられ、食事を楽しみながらアトラクションや記念品の贈呈などを行って、パーティーはお開きに。留学生たちは別れを惜しみながらも、楽しかった日本での思い出を胸に巣立っていきました。



### 新入生との絆を深める 恒例の甲南キャンプを実施。

新入生と上級生が出会い、交流を深める第28回甲南キャンプが、4月28日から30日まで2泊3日で行われました。場所は兵庫県加東郡にある嬉野台生涯教育センターで、新入生を含む約220人の学生が参加。現地到着後、開会式が行われ、続いて班別討議。夜には甲南キャンの伝統的イベント「ダンスパーティー」が開かれました。それまでは初対面でなかなかうち解けられなかった新入生たちも、これを機に仲間の輪を作り、楽しいひとときを過ごしました。

2日目は、甲南キャン初の試みとなる飯ごう炊さんを体験。火加減や水加減に戸惑いながらも、すべて手作りで仕上げた料理に、みな満足そうな様子でした。

先輩・後輩の絆を超えて、すべての学生が積極的に行動し、楽しんだ3日間。この体験を生かし、今後の大学生活がより充実したものになるよう願っています。



### 第32回「学館祭」開催。 充実の5日間に、 今年もますますヒートアップ!

5月14日から18日にかけて、学生会館管理運営委員会の主催による第32回「学館祭」が開催されました。

今年のテーマは、バカになれ2001。学生自身がプロデュースし、勢いよく幕を開けました。メインイベントは、キン肉くんなどの声でおなじみの声優、神谷明氏による講演会。業界の裏オモテをはじめ、他では聞けない貴重なお話を披露してくれました。注目の「ギャルチコンテスト」では「ギャル」に扮した女子学生がステージに上がり、ユニークなトークで会場を沸かせました。

その他、さまざまなアトラクションも併行、献血コーナーで社会にも貢献。充実の5日間は、ダンスパーティーで締めくくりに。最後まで大いに盛り上がり、それぞれの胸に楽しい思い出を残しました。



### この楽しさを高校生に。 知識と技術を伝えるアメリカン フットボールクリニック実施!

フットボールの5月4日、西宮球場で甲南大学の開学50周年を記念するアメリカンフットボールクリニックが行われました。これは学生の自主的な学びを支援する、甲南21クリエティヴランに選ばれたプログラムの一つで、主催は体育会アメリカンフットボール部。高校生にフットボールを通じて、スポーツの楽しさや大学フットボールの面白さに触れてもらうことを目的に開催。当日は星陵、宝塚東、滝川など県内の高校生たち約250人が集まり、現役プレイヤーやコーチ陣がストレッチャキングなどの技術指導にあたりました。現役学生が自ら指導することで、技術や知識など、自分自身を再確認する機会にもなったこの一日。集まった高校生はもちろん、プレイヤーたちにとっても充実した時間となりました。

### 樺山紘二氏を講師に招き 「ヨロッパが見た古代」を テーマに講演。

開学50周年記念事業の一環として、6月9日、1号館132講義室で、文学部歴史文化学科の開設記念講演会が開催されました。講師に東京大学教授の樺山紘二氏をお招きし、「ヨロッパが見た古代」をテーマに講演いただきました。

樺山氏は、日本における西洋中世史研究の第一人者であり、講演会では、アイデンティティ探しゲームから、ローマ文明の持続、「ギリシア」という他者」といった流れで、全6綱目にわたってお話くださいました。約1時間半に及んだこの講演会、参加者のみなさんは終始興味深い面もちて耳を傾けておられました。



### 就職部からのお知らせ

#### 就職部が移転しました

このたび就職部は6号館1階から新5号館1階へ移転しました。よりパワーアップしたサポートで、みなさんの就職活動を応援していきます。就職に関する疑問・質問などお気軽にお問合わせください。



#### 就職イベントスケジュール

##### 第2回就職ガイダンス

・今年度の就職状況  
・今後の就職部行事予定  
【日程】9月28日(金)・10月1日(月)・2日(火)・4日(木)・5日(金)

##### 自己分析講座

・就職活動への入門講座  
【日程】10月11日(木)・12日(金)

##### 就職模擬テスト

・就職適性検査 【日程】10月16日(火)・18日(木)・PT試験 【日程】10月23日(火)・25日(木)  
・エントリーシート対策講座(学部別)  
・エントリーシートの書き方など  
【日程】10月31日(水)・11月1日(木)・2日(金)・5日(月)・6日(火)

##### カリジトEIC

【日程】11月10日(土)

##### 公務員ガイダンス

・国税専門員・裁判所・兵庫県・神戸市  
・大阪府・大阪市  
【日程】11月中旬

##### 論文文対策講座(全2回)

【日程】11月9日(金)・12日(月)  
12月13日(木)・14日(金)  
SPI対策講座(全2回)  
【日程】11月15日(木)・19日(月)  
11月26日(月)・27日(火)

##### OB・OG懇談会(業種別)

・仕事内容・後輩へのアドバイスなど  
【日程】11月17日(土)

##### 就職講演会

・来年度就職戦線について  
【日程】11月28日(木)



『大地に夢求めて  
ブラジル移民と平生鈞三郎の軌跡』  
小川 守正、上村 多恵子 著

小川 守正氏 1922年生まれ。元甲南学園理事長で、現在は名誉理事。甲南学園創立80周年記念事業の一環として出版された『平生鈞三郎伝』や『勝利の哲学』、『実践経営学』など著書多数。



## ブラジルの国づくりに貢献した 平生の「共存共栄」の精神

甲南学園の創立者である平生鈞三郎、小川さんが平生の伝記を執筆するのはこれが一度目となる。「前回は平生さんの日記にブラジル旅立った時の記述が見つからず、そこに曖昧さを残してしまいましたが結局ブラジルの関わりを明確にしないと平生さんの生涯は本当の意味で理解できないのではないかと」。そうしたい思いに突き動かされ、上村多恵子氏と共著で取り組んだ本書には、当時の外交文書や現地日本人のインタビューに昭和史を照らし合わせ平生のブラジルでの国際貢献、ブラジル移民の繁栄、戦前の日本政府の国策、満州への戦略移民、経済状態などが綴られている。「ブラジル移民1世、2世の人たちは口をそろえて、我々が今日あるのは平生さんのお陰である」と明言されていました。ブラジル移民は家族3世代6人へ移民ですから、ブラジル自身が新しい国民として受け入れなければ成り立たない。それを推進したのが平生さん。共存共栄を信念に現地に会社も作り、ブラジルの国づくりに一役かっていたそうです。

そんな平生鈞三郎に改めて感じた魅力とは？「武士道精神だけでなく、人間としてさらに大きなロマンティスト。60歳になつてから自分の全財産・全能力を投入して、社会奉仕をしているわけですから、この本から、日本と日本人に欠けているものが何か、読みとって頂きたいですね」。

## 著者インタビュー

## 若くして亡くなった 天才音楽家、復活の軌跡を綴る

昭和初期、山田耕筰らに続く新しい音楽家として注目されながら、惜しくも28才の若さで亡くなった天才音楽家、貴志康一。彼が指揮者として活躍したのは最後にドイツから帰国してわずか1年ちょっとの短さ。しかし、そのときは日比谷公会堂が超満員になるほどの人気者でした。

甲南の卒業生でもある貴志康一は、長年忘れられていた存在だったが、甲南学園創立60周年記念事業の一環として、昭和54年に、同じ甲南出身の天才画家、長谷川三郎ギャラリーと共に、甲南高校の講堂に貴志の記念室を併設することが決定。日下さんの著書ではそれから貴志の音楽が甦っていく過程を記録していく。「没後60年記念コンサートが多数開催された平成9年。その年に、私は甲南を去ることになっていたので、貴志に関わった20年あまりを振り返ることにしました。そこで貴志康一の新しいものへの好奇心や冒険心に感銘を受けたのです。約60年前に音楽を通して、日本と西洋の懸け橋になったこととしていたのですからね。昭和初期にこんな優しい曲が作られた日本人がいたのかとの驚きもありました。甲南にそういう先輩がいたことを、多くの後輩に知ってもらいたいです」。

伝記的なところまで踏み込めず、記録にとどめた本書で、できれば今度は貴志ゆかりの土地を訪ねて貴志康一の足跡を辿る「わが心の旅」に出掛けてみたいですね。



『貴志康一  
よみがえる夭折の天才』  
日下 徳一 著



日下 徳一氏 1927年生まれ。教諭(英語)として、長らく甲南高等学校に勤務。貴志康一記念室の創設に関わり、その運営に携わる。レコードやCDの制作、コンサート開催に協力。

皆様からのお便りでつくる  
コミュニケーションスペース



甲南フォーラムは、読者の皆さまからお寄せいただいたお便りです。今回は、第5号の内容を特集、今年も好評！就職活動最前線レポートなどに対していただいた意見・ご感想を紹介いたします。皆さまと大学のコミュニケーションをさらに深めていくためにぜひ読んでください。

子どもたちに学校のことを訪ねても、大学生にもなると「それはやらされてしまったため」という冊子で大学生活の様子を少しも知る事ができるのはうれしい。「これからも楽しみにしています」。(匿名希望)

就職に関する特集ページでは、学園の学生に対する懇篤な支援体制を感じました。学業を中心とした生活全般に対しても、自己管理を3次元的、4次元的に発展させる指導を逐次展開していただければ望外です。(大阪府 法学部・文)

甲南大学では、国際人に求められている幅広い視点を養ってあげられることが具体的にわかりました。20才になる息子が大学院に進みたいと、学びに意欲を見せ始めたのもそうした教育のおかげでしょうか。親としてはその先ちゃんと自立して行くことができるのかどうか、つい心配になってしまいます。(兵庫県 文学部・母)

大学がさまざまな教育環境を用意してくれているように、現在の学生をうむやましく思いました。(匿名希望)

「KONAN PEOPLE」ではアメリカン・ソルト部の特集を楽しく読ませていただきました。この他にもこのようなコラムがあり、それぞれ色々な活動を行っているのを知りたりの、クラブ紹介の特集を設けていただけるとありがたいです。(文学部 匿名希望)

ウチのように親子、または兄弟がともに甲南大生という家庭の場合、「甲南Today」が何冊も届いて無駄になっていくのですが、何とかならないでしょうか。(匿名希望)

「甲南Today」は甲南大学が学生、ご父母の方々お一人おひとりと向き合うことを目的としているため、一人一冊お渡しすることを基本としています。ただし、お寄せいただいた意見のよう、「一家に何冊も不要とお感じの方は、広報室まで一報ください。重複して配達されないようにいたします」。

お便り募集のお知らせ  
「甲南Today」では誌面を通じて、皆さまとの交流をいっそう深めていけるよう、意見・ご感想をお待ちしています。本誌掲載の場には必要事項(お名前・記入のうえ)を添付ください。

## EVENT GUIDE SCHEDULE

11月	10月	9月
大学教育懇談会(広島)11日 帰国子女入試指定校推薦入試理工、商業科推薦入試、EBA総合入試B方式1次入試17日 第37回摂津祭21日、25日 オープンキャンパス24日 1・2年次父母就職説明会24日	スカウト推薦入試、甲南高校トリーヌ 甲南学園高等部基礎学力試験5日 図書館ライブラリオンサート18日 編入入学試験、社会人入試、経法、EBA総合入試A方式入試26日	前期末学部卒業生・大学院修了者発表(13日) 大学院修士課程1次入試、外国人留学生・博士入試18日 前期末卒業証書・学位授与式20日 後期講義開始(21日) 後期社会人講習会、言語講座(29日、12月8日、毎土曜日)

- 秋期公開講座受講者募集**  
「1・2革命と経済の行方」
- 【開講日時】9月29日(土)・11月10日(土) 毎土曜日(全6回)13:30~15:00
  - 【定員】200名(社会人対象)
  - 【開催場所】甲南大学5号館1階511講義室(ただし、10月27日(22講義室)
  - 【テーマ】9月29日「教育と1・2革命」  
10月6日「1・2革命が導く新たな成長の道」  
10月13日「アジア経済と1・2革命の役割」  
10月20日「1・2革命の行方」  
10月27日「1・2革命と証券市場」  
11月3日「日本の情報通信革命の行方」
  - 【受講料】3,000円(お申し込み料、教材代、消費税を含む)
  - 【受付期間】8月27日(月)~9月4日(火)
  - 【申込方法】往復はがきで広報室まで

## 編集後記

日陰にいてもじっとり汗ばむ季節。最近では、冷房のかけすぎで体調を崩される方が増えているようですが、皆さま方におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。

今回の「甲南Today」では、猛暑にも負けず、ますます元気盛んな甲南大学のクラブ活動を特集。ここに紹介することができたのは、そのほんの一部ではありますが、活動にのめり込む学生のナマの声を通し、大学全体に流れる活気や充実感を少しでも感じ取っていただければ幸いです。

また、今回のクラブ紹介企画は、とくにご父母の方々から強い要望をいただいているものでもあります。本誌では今後も皆さま方のお知りになりたい情報を提供できるよう努力してまいりますので、ご意見・ご要望をどしどしお寄せください。

## 次号予告

## 甲南Today No.7

2001年10月発行予定

### 特集

学内資格講座を活用しよう。

開学50周年記念シリーズ3

「大学の個性ってなんだろう?」

## 甲南Today No.6

発行日/2001年8月1日

発行/甲南学園広報室

〒658 8501 神戸市東灘区

岡本8丁目9-1

TEL(078)431 4341(代)

印刷/大日本印刷株式会社